

県内地震ごとの最大被害想定

山梨県の調査結果で、大規模地震に10メートルの最大被害想定が示された。地震規模が最も巨大で、発生確率が高いのは九州市地方の相模湾で、震源域が広がる南海トラフ。県内の首都直下地震帯は、県中地域を中心に広範囲にわたって最も大きな被害が予想される。南海トラフに次いで発生確率が高い首都直下、本州中部を震断する糸魚川ー静岡構造線断層帯なども強い揺れと、深刻な被害が見込まれる。

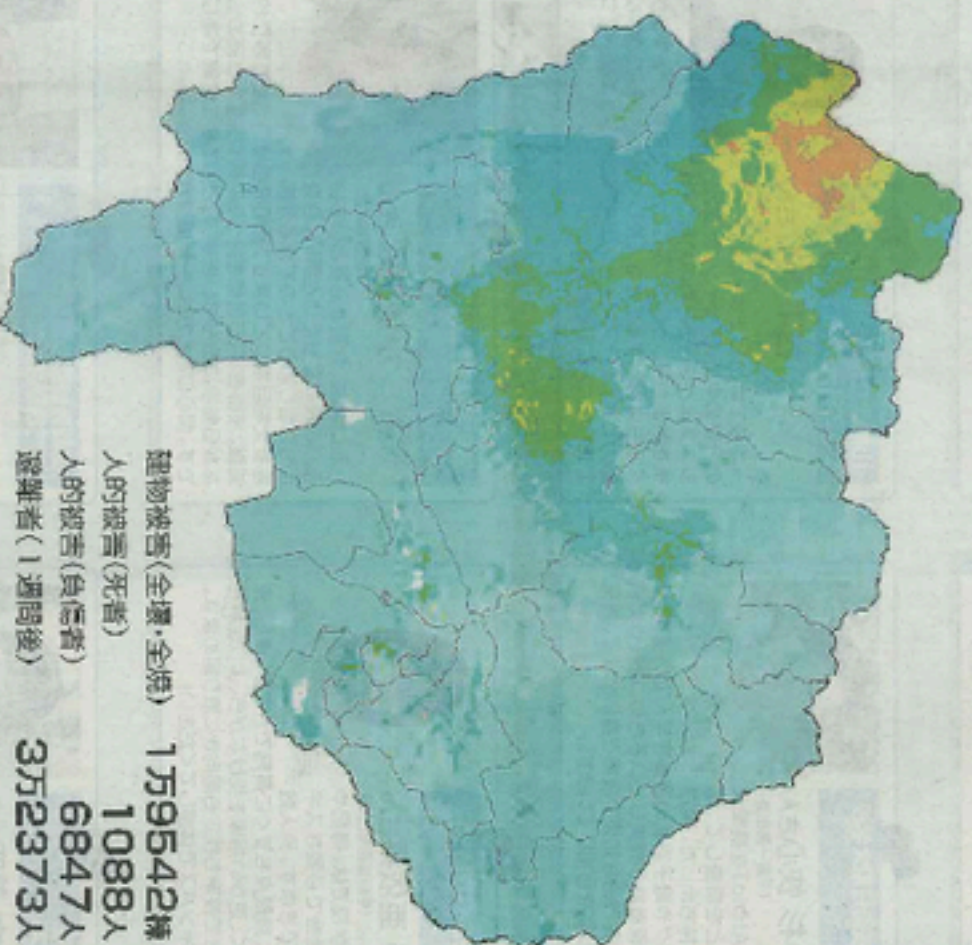
南海トラフについて内閣府は、複数の地震発生ケースを想定。そのうち「基本ケース」と、強い揺れの発生域が他側であり、全体として揺れによる被害が最大となる「逆側ケース」を、被害想定を行う地震として想定している。今回の山梨県の調査では、内閣府が想定した地震のうち、発生域が東側にあり、山梨での揺れが大きい「東側ケース」を被害想定の対象地震とした。

(学術的資料)

※電子版「さんいちEye」では詳細な調査結果を閲覧できます。QRコードからアクセスしてください。



震度階級			
7	6強	5強	4以下
6強	6弱	5弱	
6弱			



建物被害(全壊・全焼) 1万9542棟
人的被害(死者) 1088人
人的被害(負傷者) 6847人
避難者(1週間後) 3万2373人

③ 糸魚川ー静岡構造線断層帯 中南部区間



建物被害
人的被害
人的被害
避難者(1週間後)

建物被害
人的被害
人的被害
避難者(1週間後)

山梨県の被害想定の対象地震 (対象地震の震源分布)

色付きの面は、震上から見た地下の断層面(断層の広がり)を示している。
色付きの面の周囲にある枠は、地震のおおよその断層位置を示している。



④ 糸魚川ー

糸魚川ー

